

令和5年度病虫害発生予報第9号の発表について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
カンキツ	カイガラムシ類 (ヤノネカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ等)	並
	ミカンハダニ	やや多
カキ	フジコナカイガラムシ	やや多
	カキノヘタムシガ	やや少
キウイフルーツ	クワシロカイガラムシ	やや多
ブロッコリー	黒腐病	並
	花蕾腐敗病	並
	べと病	並
	菌核病	並
レタス	灰色かび病	並
	菌核病	並
	腐敗病	やや多
	斑点細菌病	並
	モザイク病	やや少
	ハモグリバエ類	並
イチゴ	うどんこ病	並
	アブラムシ類	やや多
	コナジラミ類	やや多
	ハダニ類	やや多
野菜、花きの 共通害虫	コナガ	やや少
	タバコガ類	やや多

太文字の病虫害：向こう1か月の間、発生状況に特に注意を要する病虫害を示す。

* 予報根拠中の記号

- (+)：発生量を多くする要因
- (-)：発生量を少なくする要因
- (±)：発生量が平年並になる要因

令和5年度 病害虫発生予報 第9号(12月)

A. 果樹の病害虫

－カンキツ－

1. カイガラムシ類 (ヤノネカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ等)

予 想 発生地域：県内全域

発生量：並

根 拠 秋期(9～11月)のヤノネカイガラムシの発生は認めず(－)、ナシマルカイガラムシの発生量は平年と同様に認めなかった(±)。

対 策 (1) 越冬期の密度を下げるため、冬期防除を必ず実施する。

(2) マシン油乳剤の散布は晴天の続く風のない日を選び、散布むらのないように丁寧に行う。なお、樹勢が弱い樹では散布を避ける。

2. ミカンハダニ

予 想 発生地域：県内全域

発生量： **やや多**

根 拠 (1) 一般圃場での11月下旬の発生量はやや多かった。(＋)

(2) 12月の気象は気温が高く(＋)、降水量が多い(－)予報である。

対 策 (1) 越冬期の密度を下げるため、冬期防除を必ず実施する。

(2) マシン油乳剤の散布は晴天の続く風のない日を選び、散布むらのないように丁寧に行う。なお、樹勢が弱い樹では散布を避ける。

－カ キー

1. フジコナカイガラムシ

予 想 発生地域：県内全域

発生量： **やや多**

根 拠 (1) 一般圃場での秋期(9～11月)の枝での発生量はやや多かった。(＋)

(2) 一般圃場での秋期(9～11月)の果実での発生量は平年並であった。(±)

対 策 (1) 越冬期の密度を下げるため、冬期防除と1月から2月に粗皮削りを実施する。

(2) マシン油乳剤の散布は晴天の続く風のない日を選び、散布むらのないように丁寧に行う。

2. カキノヘタムシガ

予 想 発生地域：県内全域

発生量： やや少

根 拠 一般圃場での秋期(9～11月)の発生は認めなかった。(－)

対 策 越冬期の密度を下げるため、1月から2月に粗皮削りを実施する。

－キウイフルーツ－

1. クワシロカイガラムシ

予 想 発生地域：県内全域

発生量： **やや多**

根 拠 一般圃場での秋期(9～11月)の枝での発生量はやや多かった。(＋)

対 策 マシン油乳剤の散布は晴天の続く風のない日を選び、散布むらのないように丁寧に行う。

B. 野菜、花きの病害虫

ーブロッコリーー

1. 黒腐病

予 想 発生地域： 県内全域
発生量： 並

根 拠 (1) 11月下旬の年内どり、年明けどりとともに発生を認めなかった。(－)
(2) 12月の気象は降水量が多い予報である。(＋)

対 策 (1) 薬剤防除は予防的に7～10日間隔で行う。曇雨天が続くような場合に発病を認めたら適宜防除する。害虫の食害痕等からも病原菌が侵入するので害虫防除を徹底する。
(2) すでに発生している圃場ではオキシリニック酸やカスガマイシンを含む薬剤を散布する。
(3) 大雨や強風の後は感染が助長されるので、早めに薬剤防除を行う。

2. 花蕾腐敗病

予 想 発生地域： 県内全域
発生量： 並

根 拠 (1) 11月下旬の年内どりでの発生は平年と同様に認めなかった。(±)
(2) 12月の気象は降水量が多い予報である。(＋)

対 策 (1) 薬剤防除は予防的に実施する。
(2) 銅剤を使用する場合には薬害軽減のために炭酸カルシウム剤を加用する。
(3) 降霜などによって発病が助長されるので、低温が予想される場合には防霜対策を施す。

3. ベと病

予 想 発生地域： 県内全域
発生量： 並

根 拠 (1) 11月下旬の年内どり、年明けどりとともに発生は認めなかった。(－)
(2) 12月の気象は降水量が多い予報である。(＋)

対 策 (1) 圃場の排水を良くするとともに、窒素過多にならないよう肥培管理する。
(2) 薬剤防除は予防的に実施し、初期感染を防ぐ。
(3) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

4. 菌核病

予 想 発生地域： 県内全域
発生量： 並

根 拠 (1) 11月下旬の年内どり、年明けどりとともに発生は認めなかった。(－)
(2) 12月の気象は降水量が多い予報である。(＋)

対 策 (1) 発病株は早期に発見し、抜き取って圃場外に持ち出すなど適正に処分し、直ちに防除を行う。
(2) 圃場の排水を良くする。
(3) 発生の多い圃場では連作しない。
(4) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

ーレタスー

1. 灰色かび病

予 想 発生地域： 県内全域
発生量： 並

- 根 拠 (1) 11月下旬の年内どりの発生は平年と同様に認めなかった。(±)
 (2) 12月の気象は降水量が多い予報である。(＋)
- 対 策 (1) 発病株は早期に発見し、抜き取って圃場外に持ち出すなど適正に処分し、直ちに防除を行う。
 (2) 圃場の排水を良くするとともに、トンネル内部が過湿にならないように換気に留意する。
 (3) 薬剤散布は株元を中心に、丁寧に行う。
 (4) 苗床からの持ち込みも多いので、苗床での薬剤防除を実施する。
 (5) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. 菌核病

- 予 想 発生地域： 県内全域
 発生量： 並
- 根 拠 (1) 11月下旬の年内どりの発生量はやや少なかった。(－)
 (2) 12月の気象は降水量が多い予報である。(＋)
- 対 策 (1) 発病株は早期に発見し、抜き取って圃場外に持ち出すなど適正に処分し、直ちに防除を行う。
 (2) 圃場の排水を良くするとともに、トンネル内部が過湿にならないように換気に留意する。
 (3) 発生の多い圃場では連作しない。
 (4) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. 腐敗病

- 予 想 発生地域： 県内全域
 発生量： **やや多**
- 根 拠 (1) 11月下旬の年内どりの発生は平年と同様に認めなかった。(±)
 (2) 12月の気象は気温が高く(＋)、降水量が多い(＋)予報である。
- 対 策 (1) トンネル被覆は遅れないようにするとともに、被覆前には薬剤防除を行う。
 (2) 凍霜害にあった場合は速やかに薬剤防除を行う。
 (3) 圃場の排水を良くするとともに、トンネル内部が過湿にならないように換気に留意する。

4. 斑点細菌病

- 予 想 発生地域： 県内全域
 発生量： 並
- 根 拠 (1) 11月下旬の年内どりの発生は認めなかった。(－)
 (2) 12月の気象は降水量が多い予報である。(＋)
- 対 策 (1) 育苗は風当りの弱いところで行い、できるだけ傷をつけないように管理するとともに、軟弱徒長にならないよう注意する。
 (2) 圃場の排水を良くするとともに、トンネル内部が過湿にならないように換気に留意する。
 (3) ベタがけ被覆しているところでは、降雨が続くと多発するおそれがあるので注意する。
 (4) 強風を伴う降雨が続いた後には薬剤防除を実施する。また、結球期から収穫期にかけて発病が増加するので、下葉に発生が見られたら早めに防除する。

5. モザイク病（えそ輪紋症状を含む）

予 想 発生地域： 県内全域
発生量： やや少

根 拠 (1) 11月下旬の年内どりで発生は認めなかった。（－）
(2) 11月下旬のアブラムシ類の発生は認めなかった。（－）
(3) 綾歌郡綾川町の黄色水盤での11月の誘殺数は多かった。（＋）

対 策 (1) 発病株は早期に抜き取り適正に処分する。
(2) アブラムシ類の防除を行う。また、定植時には、アブラムシ類を対象に灌
注処理や粒剤施用をする。

6. ハモグリバエ類

予 想 発生地域： 県内全域
発生量： 並

根 拠 (1) 11月下旬の年内どりで発生は平年と同様に認めなかった。（±）
(2) 12月の気象は気温が高い予報である。（＋）

対 策 (1) 苗床は防虫ネットで被覆し、成虫の侵入防止対策を講じる。
(2) 葉に食害を認める場合は、被覆前に防除を行う。
(3) 定植時には、灌注処理や粒剤施用をする。

－イチゴ（施設本圃）－

1. うどんこ病

予 想 発生地域： 県内全域
発生量： 並

根 拠 11月下旬の発生量は平年並であった。（±）

対 策 (1) 薬剤散布は予防的に5～7日間隔で行う。
(2) 茎葉が繁茂していると薬剤が十分に到達しにくい場合があるので、丁寧に
散布する。
(3) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. アブラムシ類

予 想 発生地域： 県内全域
発生量： **やや多**

根 拠 (1) 11月下旬の発生量はやや多かった。（＋）
(2) 12月の気象は気温が高い予報である。（＋）

対 策 (1) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
(2) 茎葉が繁茂していると薬剤が十分に到達しにくい場合があるので、丁寧に
散布する。
(3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. コナジラミ類

予 想 発生地域： 県内全域
発生量： **やや多**

根 拠 (1) 11月下旬の発生量は平年並であった。（±）
(2) 12月の気象は気温が高い予報である。（＋）

対 策 (1) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
(2) 圃場内に黄色粘着シートを設置し発生状況を把握し、発生初期から薬剤防
除を行う。
(3) 多発すると防除が困難になるので、気門封鎖剤などの蜜蜂への影響が小さ

い薬剤を用いて低密度時から防除する。

- (4) 一部の薬剤に対して抵抗性の発達が認められるので、作用性の異なる薬剤で防除する。

4. ハダニ類

予 想 発生地域： 県内全域

発生量： **やや多**

根 拠 (1) 11月下旬の発生量は平年並であった。(±)

(2) 12月の気象は気温が高い予報である。(＋)

対 策 (1) 人による持ち込みを回避するため、発生圃場に入った着衣のまま未発生圃場に立ち入らない。

(2) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。

(3) 発生が局所的な場合には、気門封鎖剤のスポット散布を行う。

(4) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

－野菜、花きの共通害虫－

1. コナガ

予 想 発生地域： 県内全域

発生量： やや少

根 拠 (1) 11月下旬の年内どり、年明けどりブロッコリー、キャベツでの発生は認めなかった。(－)

(2) 綾歌郡綾川町のフェロモントラップでの11月の誘殺数は平年並であった。(±)

(3) 12月の気象は気温が高く(＋)、降水量が多い(－)予報である。

対 策 (1) 苗床は防虫ネットで被覆し、成虫の侵入防止対策を講じる。

(2) 定植時に灌注処理や粒剤施用するとともに発生初期から薬剤防除を行う。

(3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. タバコガ類（主にオオタバコガ）

予 想 発生地域： 県内全域

発生量： **やや多**

根 拠 (1) 11月下旬の発生は年内どりレタスで平年と同様に認めず(±)、年内どり、年明けどりブロッコリーともに発生を認めなかった(－)。また、一部地域の花き類で発生量がやや多かった。(＋)

(2) 綾歌郡綾川町のフェロモントラップでの11月のタバコガ、オオタバコガの誘殺数はやや多かった。(＋)

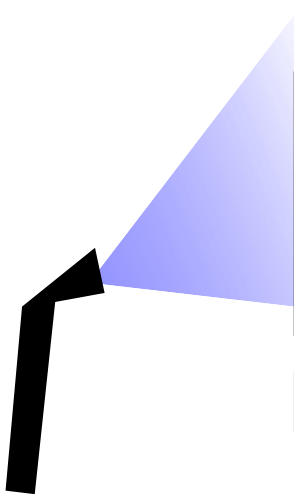
(3) 12月の気象は気温が高く(＋)、降水量が多い(－)予報である。

対 策 (1) 施設の出入口やサイド換気口等の開口部に防虫ネットを張り、侵入を防止する。

(2) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。

(3) 花蕾や成長点を食害するので被害が見えたら直ちに薬剤防除を行う。

(4) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

- 
- ・住宅地等に接した地域及び広範囲に防除する場合は、散布する前に付近住民などに周知するとともに、飛散しにくい農薬を使用するようにしましょう。
 - ・農薬散布は、無風又は風が弱いときに行うなど、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯を選び、風向き、ノズルの向き等に注意して飛散防止を心がけましょう。

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう

病害虫防除所 インターネットホームページ

URL: <https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboj/index.html>

